

令和7年度事業報告書

おひさまこども園

1. 重点課題に対する取り組みについて

(1) 安定したこども園の運営体制の構築

ア. 外部環境

幼稚園と保育所の機能を併せ持ち地域の子育て支援も行う幼保連携型認定こども園として5年経過し、さらに質の高い乳幼児教育・保育の質の向上、また地域に根差した施設としての役割が求められ、そのためには安定した園運営が不可欠です。

イ. 重点課題に対する取り組み

- (ア) 環境（人的環境・物的環境）を通して子どもの発達を保障する保育（見守る保育）の理論と実践を学ぶ研修においては、今年のテーマを「みつける」とし、子どもの成長過程の中で伸びる可能性を見つけ環境の改善や子ども理解を中心に教育・保育活動へ繋ぐことができました。
- (イ) 地域の子育て支援事業については、年間計画を立て、ホームページやインスタグラム、園だよりの回覧板を通して地域へ呼びかけました。毎回2～4組の親子が参加し園の取り組みを体験し家庭以外の集団の場を経験することで同年齢、異年齢の交流が図られ、保護者においても、子育てに対する悩みなどを相談する機会に繋げることができました。
- (ウ) 安定した園運営には、保育を支える職員一人ひとりの専門性の向上が必要です。キャリアアップ研修・県外研修等へ積極的な参加を促し個々の知識・技術の習得と資質の向上に努めました。今後も学び続ける姿勢と対話を基盤とした風通しの良い職場づくりを通してより質の高い安定した園の運営に努めていきます。

(2) 発達障害、情緒障害のある児童に対する支援体制の強化

ア. 外部環境

発達障害の特性を持つ子どもの増加により、一人ひとりに応じた細やかな支援が必要になりますが、園内だけでは保護者を含めた対応が難しいことが多く、専門家や専門機関とのより深い連携が必要です。

イ. 重点課題に対する取り組み

- (ア) 谷山病院のケースワーカーと連携し、支援の必要な子どもや保護者について谷山病院で定期的に行われるケース検討会に参加し、家庭背景を考慮した子ども対応や保護者へのアプローチの手がかりへと繋がりました。
- (イ) 言語聴覚士の定期的な訪問による園児の行動観察を行い、その後担当保育教諭とのカンファレンス時に子どもの特性や具体的な対応方法について助言を受け、継続的な支援を職員間で共有することができました。

(3) 医療的ケア児等の受け入れ態勢の構築

ア. 外部環境

令和5年度より鹿児島市でも医療的ケアが必要な子ども（医療的ケア児）も、健常児と同じように保育園・認定こども園での受け入れが本格化してきており、令和6年に本園でも1名（2歳児）さらに令和7年11月より医療的ケア児1名を追加で受け入れました。

イ. 重点課題に対する取り組み

(ア) 看護師が中心となり、保育教諭や栄養士と連携をとり、医療的ケア児が園で安心安全に過ごせるような体制を構築しました。特に食事面での問題点が多く上がり、そのたびに関係者を含め意思疎通を図ってきました。また家庭支援が必要なケースにおいては関係機関と情報を共有し、保護者も含めた支援体制を行っていくことに努めました。

(イ) 訪問看護師、療育事業所、言語聴覚士、医療的ケア児等支援センター所長、保護者、本園職員（時に市立病院医師・看護師）が一堂に会し、本園医療的ケア児の状況やこれからについて意思疎通を図る連絡会を年4回定期的に実施することができました。

2. 事業所の取り組み

(1) 年齢別在籍児童数

(年平均人数)定員 123 名

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
男児	5	8	11	11	14	10	59
女児	4	15	11	11	7	12	60
計	9	23	22	22	21	22	119
	(10)	(22)	(23)	(23)	(23)	(20)	(121)
割合	7.6%	19.3%	18.5%	18.5%	17.6%	18.5%	100.0%

()は前年度実績

※0歳児については、育児休暇明けの入所が月毎に増え一年を通して変動がありました。

(他の年齢は年間を通じほぼ一定数)

(0歳児月別在籍数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	2	2	4	3	3	5	6	6	6	6	6	6	55
女児		1	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	26
計	2	3	6	5	5	7	8	9	9	9	9	9	81
	(6)	(6)	(12)	(12)	(14)	(13)	(14)	(14)	(14)	(15)	(15)	(16)	(151)

()は前年度実績

(年間延べ人数)

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
122	262	281	273	271	244	1,453
81	268	264	268	252	264	1,397
▲41	+6	▲17	▲5	▲19	+20	▲56
66%	102%	94%	98%	93%	108%	96%

(2) 保育事業

	保育計画	実 践	反省・課題
0歳児	- 一人ひとりの生活リズムを大切にしながら生理的欲求を満たし、愛着形成の元、安心して過ごせるようにする。 - 衛生的で温かい環境の元で、健康に過ごせるようにし、情緒の安定を図る。	保育者との愛着・信頼関係をしっかりと築いていくことが、安心感へとつながり、人や物に自ら関り探究心を深めていくことに繋がった。また、生理的欲求を満たすことができるように応答的な関わりを通して情緒の安定を図った。	保護者との連携を密に図り、職員間での情報共有に努めることで個別対応が円滑にいくように心がけた。情緒の安定を図り安心感のもとで好奇心が育まれ自ら環境に働きかける姿が成長を促すことに繋がった。
1歳児	- 安心できる保育者との関わりや自ら活動したくなるような環境の中で過ごし、基本的な生活習慣を獲得しようと意欲を持つ。 - 戸外遊びを多く取り入れ、自然との関わりの中で興味・関心を広げる。	保育者との愛着関係を土台として友だちや環境に自ら働きかけることを大切に子どもたちの意欲や好奇心を大切に見守った。身体機能の成長に伴い行動範囲も広がり興味関心に沿って様々な活動に楽しんで参加できるように遊びの内容や環境の見直しを図った。	子供の興味関心を理解し、それに沿った環境やかかわりを丁寧に行うことに努めることで子どもたちの意欲や探究心の育ちへと繋がった。子どもが自分の興味を深めじっくり遊びこむ姿も見られた。
2歳児	- 基本的な生活習慣を身に付け、簡単な身の回りのことを自分で行うとする。 - 自由に活動できる安全な環境の中で友だちと関わって楽しく遊ぶ。	基本的な生活習慣の確立のために一人一人の成長発達を見極め必要に応じて援助することを個別に対応した。社会性や自我の芽生えとともに、「やってみたい」という気持ちや甘えたい気持ちが葛藤する時期を理解し気持ちに寄り添い丁寧に関わることに努めた。	社会性の発達を理解し、子ども同士のかかわりが深められるような環境構成を行った。感情を多様に表現する子どもの思いに寄り添うことで気持ちの調整や折り合いをつけることができるように関わりを丁寧に行った。
3歳児	- さまざまな体験を通し、いろいろな物事に興味や関心を持ち、自主性を育てる。 - 保育者や友だちとの関わりの中で、安心感を持って遊びや活動に取り組む。	異年齢児との活動が増える中で真似してみようという気持ちや、教えてもらう経験が刺激となり、興味関心が高まり遊びをより深めようとすることに繋がっていた。その時に味わった嬉しさや葛藤する気持ちを受け止め、自己肯定感を育むことを大切にした。	基本的な生活習慣の確立に向けて、意欲が高まるような働きかけを行い必要に応じて援助することを大切にした。異年齢同士の関わりを通して、やってみたい意欲が育ち、試行錯誤する経験へと繋げ自分で考える姿が見られた。
4歳児	自分の思いだけでなく、相手の気持ちを考えたり感じたりしながら人間関係を深め、集団としての行動ができるようにする。	友だちと一緒に活動する喜びや嬉しさが高まる活動を多く取り入れることで相手の気持ちや自分の気持ちを調整する力が育まれるように子ども同士の関わりを見守った。また、異年齢同士の関わりの中で教えたり、教えられたりする経験を通して、共感力やコミュニケーション力へとつながっていった。	友達との関わりが深まり、集団活動や異年齢活動を通して発表会では自分の得意なことを発揮し生き生きと表現する姿が見られた。一方で友だちとの衝突も経験し、会話を通して、保育者の見守りのもと問題解決に繋がった。
5歳児	- 人との関わりの中で、社会生活に必要な態度(社会性)や基本的な生活習慣を身に付け、自主性を育てる。 - 自分の思いを言葉で表現したり、友だちの思いを認めたりしてその思いを大切にしながら生活や遊びに取り組む。	主体的に活動することを目的に子ども同士が自分たちで活動内容や行事を組み立てることで子どもの思いを尊重し、子どもの参画に繋げていった。子ども同士で話し合う機会を作り、お互いの気持ちを受け止めながら、目的を達成しようとする協同性が育まれていくことを大切にしながら、援助、見守りをした。	活動や行事の内容についてのやってみたいことを伝え合い目的の実現のために協力し合うことを大切にした。協力し合う経験を積み重ねることで、協同性が育まれ相手を思いやる気持ちへと繋がり就学に向けた大切な土台が培われた。

(3) 給食事業

主な計画	実 践	反省・課題
・献立の立案 ・給食検討会の実施 ・嗜好調査の実施 ・食育の年間計画立案 ・アレルギー除去食の提供 ・共食の実施	・地産池消を取り入れ、地域の特産を生かして料理や食材の旬を生かして料理を味わえるような献立を工夫した。 ・幼児食の他に離乳食の献立を成長に応じて作成した。(初期・中期・後期) ・毎月1回栄養士・保育教諭・管理職で会議を開き、喫食状況や食への子どもの意識、食の場の環境について話し合った。 ・園での食育への取り組みが家庭でどのように反映されているか家庭での食生活の調査をし、家庭での様子を知ることにより、食事や健康面での情報を提供し、献立に反映させた。 ・年間計画に伴いおひさま農園で野菜作りや収穫を行ったり、調理前の旬の食材に触れたり食べたりすることで、季節感を味わった。 ・いおかごしま食育普及推進協議会に依頼し魚の解体ショーを実施し、命について学ぶ機会となった。 ・アレルギーを持つ子どもへ代替メニューの提供と配膳トレーの分別を行った。 ・5歳児が、01歳児と月2回一緒に食事をしたり、2歳児のバイキングの配膳後一緒に食事をするることにより、食事の介助をしたり交流を持ったりする共食を実施した。	・咀嚼や嚙む力などの発達を考え、素材や調理法を工夫した献立を取り入れることができていた。 ・全クラスの子どもの食事の状況を把握することにより、献立や調理法の改善を図った。 ・給食や食育への取り組みに対しての感想・意見等もたくさんいただき、励みにもなった。 ・子どもが取り組む野菜の種まきや収穫の様子などを月毎の食育体験として掲示したり、園だよりやホームページ・Instagramで知らせたりして、園の食育の認知を図った。 ・魚の解体ショーは子育て支援事業と抱き合わせて行い、好評だったため来年度も同協議会に依頼し実施予定。 ・離乳食・アレルギー食の子どもの把握、メニューについて保育教諭と栄養士・調理員で周知徹底し連携をとることで、誤飲誤食を防止できた。 ・5歳児が未満児のお世話をしながら食事をする共食は、食事前後の時間の交流もでき、未満児にとっても年長児にとってもいい体験になった。

(4) 地域交流事業

	事業名	実 践	反省・課題
5月 7月 9月 10月 2月	世代間交流事業	・愛と結の街の方々との交流 ・七夕飾りの交換 ・ディサービスでの交流 ・歌・紙芝居の読み聞かせの交流	・両施設の状況の連携を取りながら直接の交流を5回実施することができた。子どもたちのダンスや歌で、お年寄りの笑顔をたくさんみることができ、またお年寄りに読み聞かせもしていただき、子どもたちもとても喜ぶなど、いい交流ができた。
5月 7月 9月 10月 12月 1月 2月	子育て支援事業	・年間行事計画に基づいて地域の子育て世帯を対象ホームページやInstagramで発信するとともに、町内会の掲示板に掲載するなどして子育て世帯の支援に努めた。	・HPやInstagram・町内会への回覧板など、広報を工夫することで参加者が徐々に増えてきた。参加者には喜んで頂けたので、またさらにない内容を工夫し参加人数の増加に向け改善策を図り多くの地域の子育て世帯へと働きかけていきたい。
6月 8月	異年齢児交流事業	・運動会での小学生種目参加や、1年生になった卒園児の一日保育士など、異年齢児との交流事業を実施した。	・成長した子どもたちに会え、その成長ぶりを実感できたことがうれしかった。 ・一緒に生活していた在園児もとても嬉しそうで、いい交流ができた。

(5) 幼児保育相談事業

日 時	内 容	対応・反省
R7 5月28日(水) R7 7月19日(土) R7 8月28日(木) R7 12月5日(金) R8 2月25日(水) 年間6回	◎(言語聴覚士 西野先生訪問相談)・午前10時～12時園児の行動観察をして頂き、13時～14時に各クラス別に担任保育教諭を交えて、カンファレンスを行う。 1回につき、4～5名園児について年間4回実施した。 ◎谷山病院とのケース検討会 支援の必要な子ども・親への対応について、相談事項の書類を提出した後、谷山病院のケース検討会に毎回保育教諭が2～3名出席した。	・言語聴覚士における発達が気になる子どもの観察を通して、子どもの特性や対応について具体的な方法を学べた。また、保護者への発達相談につなげることもできた。 ・谷山病院のケース検討会に直接参加することで、さまざまな専門的な立場からの助言を頂き、特に保護者の見方や対応の仕方についての学びになった。

(6) 実習受け入れ

学 校 名	人 数	実習期間	日数	目 的
鹿児島医療技術専門学校	5	R7/5/12～5/16	5日間	小児看護学実習
東谷山中学校	4	R7/5/20～5/22	3日間	職場体験
鹿児島中央看護専門学校	17	R7/6/25～9/26	14日間	小児看護学実習
鹿児島女子高等学校	2	R7/7/2～7/4	3日間	職場体験
鹿児島純心女子短期大学	1	R7/8/18～8/30	11日間	保育実習
串木野特別支援学校	1	R7/12/1～12/12	11日間	職場体験
株式会社ハートフル就労継続支援A型	1	R7/12/8～12/12	4日間	職場体験
鹿児島女子短期大学1年	1	R8/2/16～3/2	11日間	保育実習

3. 苦情・相談

計 画	内 容	対応・反省
・保護者からの相談・苦情を広く受け付けるために、日々の連絡帳や苦情箱から苦情をひろいあげ、HP上に公開する。 ・相談苦情解決責任者・受付担当者・第三者委員を決定し、公表する。 ・保護者には入所時また保護者懇談会時に「相談苦情申出窓口」についての紹介を行う。	・就学教育相談の提案に対しての保護者の不安や戸惑い ・園での水分摂取量の不安・及び持ち物の紛失について	・対応した職員が副園長・園長に報告。再度面談の場を設け説明不足であったことを謝罪し就学教育相談の流れについて丁寧に説明した。 ・水分摂取量や食事内容についての説明・提案を行う。また紛失物対応の遅れについて謝罪し再発防止について連携強化を伝えた。

4. 防災訓練

計 画	実 施 内 容	反省・課題
◎毎月、防災・避難訓練を行う ・毎月消火訓練も行う ・年2回脇田分遣隊立ち合いの訓練を実施 ◎月3回安全点検（園舎・園庭）を行う ◎災害用品の購入 ◎保護者へ避難所の提示	◎毎月、防災・避難訓練を行う ・火災避難訓練（年5回）（脇田分遣隊2回） （第二避難所まで避難1回） ・地震避難訓練（年4回） ・津波避難訓練（第三避難所まで避難1回） ・台風避難訓練 ・業務継続計画に基づき保護者への引き渡し訓練を実施 ・不審者避難訓練（市安心安全課の指導派遣有り） ◎月3回園内の安全点検（保育教諭2名1組で実施） ・安全点検のマニュアルに沿って実施 ◎防災・災害用品購入 ・避難用食料・水保存倉庫 ・非常時食品 ◎重要事項説明書・入園しおりに記載・入園説明会にて説明	・脇田分遣隊立ち合いの避難訓練を実施しアドバイスをもらう。 ・地震時には防災頭巾を使用した訓練を実施（園児） ・引き渡し訓練では保護者の協力を得てスムーズに実施できた。 ・避難用滑り台での訓練も実施し、非常時には滑り台と階段の二手に分かれての避難もできるように日頃から心掛けておく。 ・避難時に食料・水をすぐ取りに行けるように、玄関横に倉庫を設置した。 ・毎月、看護師によるAEDの点検を実施。地域の人たちにもAEDを常設している場所として知らせていく。

5. 会議及び研修

(1) 研修計画（園内）

主な計画	実 践	反省・課題
◎園内研修	・一円対話・クラスミーティング、全体研修を交代に月ごとに1回ずつ繰り返す、いろんな面から保育の質を高める研修をすすめる。（一円対話はFT5人が担当）（年4回） ・園内研修コーディネーター養成講座を受けた職員を中心に環境や子どもの成長発達を丁寧に教育・保育に反映させていくための取り組みについて定期的に開催し学びを深めた。 ・子どもの発達・障害児対応について、言語聴覚士の西野先生の講話（7/19）	・一円対話での聞く姿勢や共感力を、チーム内や園全体でのコミュニケーションにつながるように継続し続けたことで、クラスミーティングでも話しやすい環境づくりを一人ひとりが心掛けていっているように見受けられる。 ・園内研修コーディネーター養成講座の受講に伴い、講師による公開保育を機に再度保育の見直しを図り、課題や改善などを共有し、全体の質の向上を図ることに意識が高まった。今後も子ども理解という観点で園内研修の内容を深めていきたい。 ・定期的に幼児保育相談に来ていただいている西野先生の障害児への対応について具体的な話を職員がみんな聞きたいという要望があり、園内研修として実施した。来年度以降も継続して、学びを深めたい。
◎見守る保育（こども主体の保育）研修	○藤森先生講演会（4月） ○環境セミナー参加（9月11日） ○研修園見学、見学者受け入れ ○藤森メソッド全国実践研究大会（2月）	・「子ども主体保育」の具体的方法論の講話を4月は原点にもどるため、同じ保育を勉強している10ヶ園が集まり講演会を実施。その後、東京の新宿せいがこども園の見学も含むセミナーに2名ずつ参加して、見学したものを園に持ち帰り、園内の環境づくりに活かした。 ・同じ学びを進めている園の見学をさせていただいたり、本園が見学者を受け入れたたり、またオンラインで全国の実践発表を視聴することにより、学びを深めた。

(2) 会議

会議名	回 数	延べ参加人数	会 議 内 容	参 加 職 種
職員会議	12	245	翌月の行事・研修・共通理解 各クラスより問題提起	園長・副園長・保育教諭・栄養士・ 主幹・事務
危機管理会議	12	96	毎月の事故状況・発生防止策	園長・副園長・主幹・保育教諭
給食検討会	12	84	喫食状況・献立、食育検討	園長・副園長・栄養士・保育教諭
担当者会議	14	80	行事等の準備・計画・実施	各担当者
管理者会議	6	30	理念の確認・園内状況の把握・	園長・副園長・主幹等 3 名
リーダー会議	6	48	理念の確認・チームの連携 各チームの報告・相談	主幹等 3 名・チームリーダー

6. 年間行事報告

毎月の行事	実 践	反省・課題
誕生会	・月により行事と抱き合わせて実施。毎月、 年長児 2 名と保育教諭 2 名が担当者となり、 内容・準備物について話し合い、年長児が司 会をするなど子ども主体となって実施した。	・全体の行事をリズム室で行うため、初め のころはざわついたり、子どもが移動し たりと落ち着かない雰囲気だったが、子 どもたちが司会をしていることと、それ ぞれの子どもたちが成長していることに より、自ら参加する姿勢を身につけてい くことができた。
避難訓練	・月により地震や火事、不審者など災害の種 類を変え、実施時間も様々な時間帯に設定 し、また時間を職員にも伝えず実施し対応力 を訓練する機会を多く持つようにした。 ・業務継続計画に基づき保護者への引き渡し 訓練を実施する。	・第二、第三避難所までの避難も実施し た。
設備点検	・設備点検マニュアルに従い、毎月 3 回担当 保育教諭 2 名が点検を行った。	・修理が必要な部分はすぐに業者に連絡 し、改善を図った。修繕箇所が年々増えて いるので計画的な対応が必要である。 ・保護者の協力を得て、実施できた。災害 の種類に応じて避難場所が変わることを 職員に再度周知していく。
一日保育士	・全クラスで保護者各 1 名を限定に再開し た。(10 時～12 時 30 分頃までクラスで親子 一緒にクラスで活動)	・ほとんどの保護者が参加し、園での生活 を親子で体験することをととても喜ばれて いた。

月	主な計画	実 践	反省・課題
4 月	進級式	・4 月 1 日に在園児の進級式を行い、 4 月の誕生会では新入園児を紹介 し、入園を祝った。	・3 月より新体制で保育を行っている が、4 月 1 日に改めて行うことで、新 しい担任も認識し、進級した実感がわ いたようだった。
5 月	交通安全教室 保護者懇談会	・ヤマト運輸の方に来ていただいて 交通安全教室を実施した。 ・0～2 歳児クラス、3～5 歳児クラ スの 2 回に分けて懇談会を実施。パ ワーポイント等の動画を使って、園 の取り組みや理念、各クラスでの保 育のねらいや現在の子どもの姿につ いて伝えた。	・業者の方や大きなぬいぐるみが珍し く、子どもたちも興味津々で楽しく交 通安全教室が実施できた。 ・コロナ以降、5 年ぶりの集合型の保 護者懇談会であったが、ほとんどの保 護者の方が参加し、園の保育の取り組 みや園への理解を深めていただけた。
6 月	健康診断 歯科検診 運動会	・予定通り実施できた。 ・2 歳児以上保護者 2 名までの制限 をつけて午前中で終わるように実施 した。年長児が様々な係を担い、子 ども主体の運動会を実施した。	・密を避け、風通しの良いところで実 施した。 ・2 歳児から参加種目が終わり次第に 親子で降園となったため、密になるこ ともなく、競技を楽しむことができた。

7 月	プール遊び開始 七夕まつり	・大きい組、小さい組に分かれ、保育活動の中にプール遊びを取り入れた。(7 月～8 月)	・安全が保持できることを第一にし、保育教諭で連携を取りながら実施することができた。(人数、水温、気温の確認) ・必ず水面の監視員一人を置き、監視体制を整える中で実施した。
8 月	縁日ごっこ	・年長児を中心に縁日ごっこの計画を立てて準備をし、全園児を招待する縁日ごっこを保育中に実施した。	・年長児が考えたゲームについて年中児・年少児も保育活動中に一緒に準備することで意欲をもって活動することができた。
9 月	十五夜	・誕生会と合わせて十五夜の行事についてわかりやすく伝えた後、つなひきを実施し、日本の文化に触れることができた。	・おひさま農園で収穫した里芋もお供えて飾り、十五夜の意味を各クラスで伝えた後、怪我がないように綱引きを楽しんだ。
10 月	秋の親子遠足 ハロウィン大会	・親子で平川動物園に現地集合し ・ハロウィンの変装をして「ディサービスあしたの風」を訪問し、お年寄りと交流した。	・園内でも子どもたちが楽しめるように、どこでも探検して食事ができるようにした。 ・初めての試みで打ち合わせ等も実施し、楽しい交流ができた。次年度もお願いしたい。
11 月	発表会 おいもほり 焼き芋大会	・各年齢の子どもたちが無理をせず、発達に応じた表現する姿を保護者の前で堂々と披露することができた。 ・おひさま農園で育てていたサツマイモの芋ほりを実施し、2 週間後に園庭で焼き芋大会を実施した。	・クラスごとに時間をずらし、2 日間に分けて実施した。0～1 歳児においては普段の姿を見て欲しいという思いで、保護者と一緒に体験型の発表会となったが、子どもの成長を直に感じられて保護者も嬉しそうだった。 ・おひさま農園のお芋を収穫後、園庭で薪や落ち葉を使った焼き芋大会を行った。下準備から焼いている時の見守り、食べるまでを体験することで、自然に歌を歌いだすなどわくわくした表情がたくさん見られた。
12 月	クリスマス会	・職員の家族がサンタクロースに変装し、子どもたちにプレゼントを渡してもらった。	・一クラスずつ、リズム室でプレゼントをもらうことで、サンタクロースとのやり取りも楽しんでいた。
1 月	七草	・春の七草、由来を話した上で給食の七草粥をいただく。	・七草の由来を丁寧えることで、給食中も七草に興味を示し、友達同士で会話もひろがっていた。
2 月	節分の行事	・年長児が準備・計画し、小さい組は保育室で、3 歳児以上はリズム室で節分の豆まきを楽しんだ。	・年長児がどのような節分にするか話し合い、計画を立て、準備を進めていった。子どもたちで計画・役割分担を話し合い実施した企画であり、怖がる子どもに寄り添い慰める役の子どもたちもいて、成長を感じた。

3 月	ひなまつりの行事	・リズム室に飾ってある雛人形を囲んで実施。	・ひな祭りへの興味を深める手立てが出来ていた。
	お楽しみ遠足	・笹貫公園の予定だったが、雨天の為園内保育を実施。各クラスで宝探しをしたり、室内でも身体を動かして遊ぶことができたようにした。	・雨天であった為、園内遠足となる。園内で宝探しを異年齢クラスで行い年長児との関わりを深めることにつながった。
	いちご狩り遠足		・雨天であったが、いちご狩りは実施することができた。公共の場での活動でルールなどを意識しながら周囲へ注意を向けることができていた。バス利用がとてもいい経験となった。
	入園説明会	・年長児を対象に実施。バスを貸し切り、伊集院の片平農園へ出かける。	・ご協力保育により多くの職員が参加できたため、個別面談も一斉に実施することができた。
	お別れ会	・兄弟組は別日に設定したため、一度に9組だったが、ゆったりとリズム室で実施することができた。	・大きい組の職員・子どもたちが役割分担をし、どの子も年長組のために準備を進めたお別れ会となったが、送る側も送られる側も嬉しそうな表情が印象的であった。
	卒園式	・のびのび組が会場の飾りを作ったり、いきいき組がフルーチェを作ってもてなしたりするなど、大きい組の子どもがお別れ会を盛り上げてくれた。	・自分たちが主役という自信に年長児の表情は輝いており、涙あり笑顔ありの心のこもった卒園式を実施できた。保護者の方の準備も大変だと思ったが、たくさんの方が連携をとりながら卒園式を彩ってくれた。
		・職員の準備や子どもたちの作品に加えて、保護者の方々も園や職員への思いを言葉や写真に込めた掲示物を会場前に飾ってくださり、感謝の気持ちを伝えあう卒園式となった。	

◎月例会議

	内 容	回 数	参加者
園内研修	子どもの人権について、保育の質の向上について等	4 回	全職員
職員会議	園長より、行事、研修等の報告、各クラスの共有事項の確認周知	12 回	全職員
危機管理会議	ヒヤリハット事例、危険個所の確認改善か所、環境の見直し	12 回	担当者、園長、主幹、保育教諭
給食検討会	食育活動、各クラスの喫食状況、献立の見直し	12回	栄養士、調理士、園長、主幹、保育教諭
リーダー会議	リーダーが一同に会し、クラス環境・個別の支援が必要な子どもの対応	4回	各クラスリーダー
ケース会議	言語聴覚士によるカンファレンス、谷山病院とのケース会議	8回	園長、主幹、保育教諭
チーム会議	クラス毎に環境の見直し、個別に応じた支援の共有	12 回	チーム職員

7. 設備計画

月 日	工事名 ・ 品名	内 容
R7. 7 月 31 日	スチームコンベクションオープン	一度に多くのものを調理できることで業務負担を軽減するために購入
R8. 3 月 31 日	包丁・まな板殺菌庫	設置して 16 年～18 年経過した空調機器であったため、故障も多く、老朽化のため入れ替え
R8. 3 月 31 日	倉庫新設工事（自転車置き場）	園庭の倉庫の老朽化と自転車置き場が、園舎奥にあるため、倉庫の補修と新たに自転車倉庫を設置した。
R8. 3 月 31 日	複合機	故障が多く、修繕を繰り返す状況が続き業務に支障をきたしていたため購入

8. 職員管理

- (1) 入職者 正規職員 3（保育教諭 2・栄養士 2 R7 年 10 月入職）
- (2) 退職者 正規職員 2（栄養士 内訳 R7 年 7 月退職 R8 年 2 月退職）
 非常勤職員 1（施設係兼保育教諭）
- (3) 職員体制（令和 8 年 3 月 31 日現在）

職種区分	人数	正規職員	常勤職員	非常勤職員	
園 長	1		1		
副園長	1	1			
主幹保育教諭	2	2			
保育教諭	23	15	3	6	
看護師	2	2			
栄養士	2	2			
調理員	3		1	2	
事務員	1	1			
施設係・保育補助	3			3	
計	37	19	5	13	